

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26381060

研究課題名(和文) 共同学習・生活史学習の教育学的再検討 - 歴史・比較・実証研究

研究課題名(英文) Re-examining of Educational meaning on Collaborative learning-Historical, Comparative Study

研究代表者

姉崎 洋一 (ANEZAKI, YOICHI)

北海道大学・教育学研究院・名誉教授

研究者番号：80128636

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：青年期の社会的移行や成人の自己形成における自己学習と共同学習の教育学的編成の歴史実証的再定義を試みた。戦後日本の「共同学習的」諸形態と方法、その理論的実践的成果についての教育学的な再定義を目的とした。

具体的には、日英韓の3カ国の青年期・成人期の学習実践事例の検討を行い、その実践を支える 講師・助言者・学習者の共同関係、学習組織編成とプログラム内容、学習者当事者集団、自治体ないしNGO組織、学校ないし大学等の教育機関の協働的緊張関係など、学習実践をなりたててきた「学習共同体」の構造を明らかにし、それらの学習運動の理論的な再評価を行ったといえる。

研究成果の概要(英文)：We aim to study of youth transition and self-formation by re-examining on Collaborative Learning practices. In Japan there were traditional learning activities, which were so called " Kyoudou Gakushu "(Collaborative Learning). 1, We try to re-examine in the 1970's practices such as " Seikatsushi Gakushu "(life history learning). Such activities had unique educational value in a sense of pedagogical meaning. At the same time we realized it is common practices even though in different language and different culture background. 2, This time we held Symposium on collaborative learning between UK and Japan and it was significant to understand it's meaning each other.

研究分野：教育学、社会教育、高等継続教育

キーワード：生活史学習 生活記録 小集団 creative writing 共同学習 社会的移行 学習理論 若者の自己認識

1. 研究開始当初の背景

青年期の社会的移行や成人の自己形成における自己学習と共同学習の教育学的編成、学習運動と学習論の歴史実証的再定義が、必要となっていると認識していた。そこで、具体的には、次の研究対象と目的をもつこととした。第一に、日本においては、1970年代から90年代にかけて名古屋地域を中心に組み込まれた生活史学習の歴史実証的研究を行う。生活史学習運動は、学校での生活綴方実践、1950年代の青年団を中心とした共同学習運動、紡績工場の女性労働者たちを中心とした生活記録学習の成果を前史としつつ、1960年代後半から70年代における社会的に排除されていた都市勤労青年の自己形成とあらたな共同化の中核的实践理論となるものであった。また、この実践は、類似の「自分史学習」や「たまり場学習」と関連しつつも、それとは異なる学習理論仮説と組織化理論を有するものであった。また、それは、現代における若者支援における若者把握、居場所、支援者論、プログラム編成、包括的学びのありようにも通じていくものがひそんでいると思われる。

同時に、この実践の現代的意味付けを行うことは、現代の若者・青年期の社会的移行(transition)や「いまを生き抜く」学習実践への深い理論的示唆を与えるものと思われる。また、生活史学習にたずさわった当事者たちの経時的変化、学習運動が与えた人生への影響などについての追跡インタビュー調査、学習理論の学説史的な検討などは、現代のナラティブ学習や状況的学習理論に新たな光をあてることになると思われた。同時に、詳述しないが、英国と韓国に関しても、それぞれの文脈で、事実在即して検討が必要と思われた。

2. 研究の目的

戦後日本において取り組まれてきた「共同学習的」諸形態と方法、その理論的実践

的成果と蓄積についての教育学的な再定義を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

具体的には、日英韓の3カ国の青年期・成人期の学習実践事例の検討を行い、その実践を支える講師・助言者・学習者の共同関係、学習組織編成とプログラム内容、学習者当事者集団、自治体ないしNGO組織、学校ないし大学等の教育機関の協働的緊張関係など、学習実践をなってきた「学習共同体」の構造を明らかにし、それらの学習運動の理論的な再評価を行うものである。

4. 研究成果

下記の研究生産を生み出し、また英国の研究者・実践家とシンポジウムを持ち、問題意識と共通課題を確認した。著作の刊行を計画している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

1. 姉崎洋一「大学の生涯学習と地域」科研費研究『地方国立大学の地域貢献型生涯学習に関する実証研究成果報告書』(研究代表、村田和子・和歌山大学・課題番号15K04295) 115-120頁、125-132頁、2018年3月、(査読無)

2. 姉崎洋一「高等継続教育論の回顧と展望」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第130号 29-41頁、2018年3月(査読無)

3. 姉崎洋一「はじめに」『生活をとらえ、綴り、表現する学習の再検討』3-13頁、15-27頁、科研費成果報告書『共同学習・生活史学習の教育学的検討-歴史・比較・実証研究』(研究代表、姉崎洋一北海道大学名誉教授・課題番号2638106004) 2018年3月(査読無)

4. 宋美蘭「韓国の代案教育運動の生成展開過程とその性格-1980年代から1990年代の教育運動に着目して」『北海道大学大学院教育学研究院子ども発達臨床研究第11号、11-25頁、2018年3月(査読無)

5. 武田るい子「リーズ市のスワスマア教育センター訪問調査報告」135-141頁、科研費成果報告書『共同学習・生活史学習の教育学的検討-歴史・比較・実証研究』(研究代表、姉崎洋一北海道大学名誉教授・課題番号2638106004) 2018年3月(査読無)

6. 辻智子「青年の学習における共同学習と生活記録：日本の1950年代の経験を中心に」81-88頁、科研費成果報告書『共同学習・生活史学習の教育学的検討-歴史・比較・実証

研究』(研究代表、姉崎洋一北海道大学名誉教授・課題番号 2638106004) 2018年3月(査読無)

7. 姉崎洋一「憲法の危機と社会教育法改正」の動向」44-50頁、『月刊社会教育』2018年1月号(査読無)

8. 辻智子、「就職進学/進学就職」という進路「働きつつ学ぶ」多様な形態と若者の生活・労働・教育に関する研究への構想(その2)青年期教育 青年期教育論研究室年次報告 2018年1月(査読無)

9. 長澤成次、「社会教育行政をめぐる課題 文部科学省生涯学習政策局・社会教育課「廃止」を問う」『月刊社会教育』(査読無) 第62巻第1号、2018年1月、4頁~11頁

10. 長澤成次、「公民館への指定管理者制度導入における問題点と課題」『日本公民館学会年報』(査読有) 第14号、2017年11月、58頁~68頁、

11. 姉崎洋一・長澤成次・安藤聡彦・堀尾輝久・佐藤一子「シンポジウム：学習・表現の自由と社会教育-専門家意見書の内容と論点」3-19頁、『月刊社会教育』2017年6月号(査読無)

12. 長澤成次、「『新憲法の精神を日常生活に具現するための恒久的施設』としての公民館」『月刊社会教育』(査読無) 第61巻第5号、2017年5月、46頁~51頁

13. 辻智子、「実践報告：「性の多様性」の視点が提起するもの-教科外教育論(特別活動論)とのかかわりから」北海道大学教職課程年報(7) 15-22 2017年3月(査読無)

14. 武田るい子、「英国における若年者就労支援政策の変遷」『清泉女学院短期大学紀要』第35号、2017.3.35-49頁(査読無)

〔学会発表〕(計6件)

1. 姉崎洋一「社会教育における学習の自由と公共性」2017年9月15日、日本社会教育学会第64回大会、プロジェクト研究、埼玉大学

2. 姉崎洋一・横井敏郎・横関理恵「キャメロン政権の中等教育改革政策-アカデミーと新タイプ学校導入を中心に」2017年7月1日、日本教育政策学会第24回大会、自由研究発表、京都女子大学

3. 姉崎洋一「日本の生涯学習政策の潮流-歴史及び比較の視点から」Key note speech; Gyeonggi Do Provincial Institute for Lifelong Learning about Lifelong Learning Forum 2017, 2017.6.23 韓国、京畿道生涯学習研究所・韓国国家教育部主催、国際シンポジウム、於、京畿道光明市

4. 姉崎洋一・武田るい子「英国における若者支援プログラムの現状-リーズ市の成人教育センターを例として」2016年8月25日、日本教育学会75回大会、自由研究発表、北海道大学

5. 姉崎洋一「共同学習・生活史学習の教育的検討」日本社会教育学会東海6月集会、2016年6月、名古屋大学

6. 姉崎洋一「地球市民教育と主権者教育の結合の理論と実践課題」大学評価学会「高大接続と社会参画の在り方」部会、2016年5月15日、北海道大学

〔図書〕(計4件)

1. 辻智子『<食といのち>をひらく女性たち 戦後史・現代、そして世界』(担当:分担執筆、範囲:戦後農村における生活改善と女性)農山漁村文化協会 2018年

2. 姉崎洋一『社会教育・生涯学習ハンドブック(第9版)』(担当:第一編「貧困・格差社会における新たな希望をつむぐ社会教育・生涯学習の課題」36-41頁)エイデル研究所 2017年10月

3. 長澤成次『社会教育・生涯学習ハンドブック(第9版)』(担当:社会教育・生涯学習の政策と行財政・制度)エイデル研究所 2017年10月

4. 辻智子、『社会教育・生涯学習ハンドブック(第9版)』(担当:青年の学びと若者支援)エイデル研究所 2017年10月

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1)研究代表者
姉崎洋一(ANEZAKI YOICHI)
北海道大学・教育学研究院・名誉教授
研究者番号：80128636
(2)研究分担者
辻智子(TSUJI TOMOKO)
北海道大学・教育学研究院・准教授
研究者番号：20609375
宋美蘭(SONG MIRAN)
北海道大学・教育学研究院・非常勤研究員
研究者番号：70528314
長澤成次(NAGASAWA SEIJI)
千葉大学・教育学部・名誉教授

研究者番号：50172523
浅野かおる (ASANO KAORU)
福島大学・行政社会学類・教授
研究者番号：10282253
武田るい子 (TAKEDA RUIKO)
清泉女学院短期大学・教授
研究者番号：20442171

(3)連携研究者

(0)

(4)研究協力者

MIRIAM ZUKAS (UNIVERSITY OF LONDON,
Professor)
MAGGI BUTURFIELD (LEEDS SWARTHMORE
EDUCATION CENTRE, Ex Director)
LEONORA RUSTAMOVA (LEEDS SWARTHMORE
EDUCATION CENTRE, Lecturer)